

授業科目	地域看護学概論		学期	通年	必修
時間数(単位数)	45時間(2単位)	担当教員	柴田 真理子		
授業目的 潜在・顕在する地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の原理・原則を理解する。そのために公衆衛生とその看護の歴史、また保健師活動や保健師教育の変遷について学習し、さらに、地域看護の課題と今後の展望を考える。 地域看護活動が目指す地域全体の健康水準の向上に向けて、保健師の地域看護活動の基本となる、地区把握、地区診断、地域看護活動計画、評価についての一連の過程を学ぶ。個から集団、地域へと幅広く対象をとらえ、具体的な地域看護活動が考えられることを目標とする。					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	} 地域看護の理念と目的	16	NPO、NGO		
2		17	} 地域看護支援技術		
3	} プライマリヘルスケア	18	} ①家庭訪問		
4		19	} ②保健指導		
5	} 地域看護学の歴史	20	} ③グループ、組織化		
6		21	} ④個から集団、地域へ		
7	} 公衆衛生の歴史と活動の実際	22	}		
8		23	まとめ		
9	} 活動対象の特性	24			
10		25			
11	} 地域看護活動の方法	26			
12		27			
13	} 社会情勢と地域看護活動	28			
14		29			
15	グローバリゼーション	30			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 1 地域看護学概論 (メヂカルフレンド社) 地域看護学 三訂(中央法規出版) 最新保健学講座 3 地域看護活動論① (メヂカルフレンド社) 国民の福祉の動向 2011年/2012年 (厚生統計協会) 国民衛生の動向 2011年/2012年 (厚生統計協会)					
評価の方法 筆記試験、出席状況 ※7・8は菊川縫子、13・14は岸田秀樹					

授業科目	地域看護管理論	学期	通年	必修
時間数(単位数)	15時間(1単位)	担当教員	柴田 真理子	
授業目的 地域看護活動が目指す地域全体の健康水準の向上に向けて、保健師の地域看護活動の基本となる、地区把握、地区診断、地域看護活動計画、評価についての一連の過程を学ぶ。個から集団、地域へと幅広く対象をとらえ、具体的な地域看護活動が考えられることを目標とする。 また、地域において保健師には管理能力が求められる。地域の健康課題の探求、調整、組織管理、政策開発について基礎的な知識を学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	地域看護活動の目的			
2	地域看護活動の基本と対象のとらえかた			
3	地域看護診断について			
4	〃			
5	保健計画について			
6	〃			
7	地域看護管理について			
8	〃			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 2 地域看護支援技術 (メヂカルフレンド社) [参考書] 石井敏弘・櫃本真事編 ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発 ライフ・サイエンス・センター 平野かよ子編 地域特性に応じた保健活動 ライフ・サイエンス・センター				
評価の方法 筆記試験、出席状況				

授業科目	地域看護活動展開論		学期	通年	必修
時間数(単位数)	45時間(2単位)	担当教員	柴田 真理子		
授業目的 地域で生活する個人、家族、集団への生活支援について学ぶ。情報収集、分析、ケア提供について生活や生活環境と結び付けて考える力を身に付ける。 また、様々な地域看護活動領域における保健師の専門性や役割を理解することを目標とする。					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	} 地域看護活動の方法と技術	16	} 地域看護実習Ⅲ 実習先		
2		17			
3		18			
4		19			
5		} 健康危機管理における保健師活動	20		
6			21		
7	} 保健師の活動領域	22	} 災害時の看護活動		
8					
9	} 政令市における保健師活動の実際	23			
10					
11					
12					
13	} 国際保健活動～在日外国人の保健				
14					
15	地域看護診断の実際				
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 3 地域看護活動論① (メヂカルフレンド社) 最新保健学講座 6 疫学/保健統計 (メヂカルフレンド社) 公衆衛生看護活動論 技術演習 (クオリティケア) 無名の語り 保健師が「家族」に出会う 12 の物語(医学書院) [参考書] 国際看護研究会編 国際看護学入門 医学書院					
評価の方法 前期・後期とも筆記試験、出席状況 ※9～12 は山口直子 13・14 は高嶋 愛里					

授業科目	家族相談援助論	学期	前期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	朝山 友介	
授業目的 少子高齢化がもたらす社会の変化は、家族のあり方や家族関係そのものの健康上の問題となっている。 家族とは何か、家族の健康とは何か、家族の持つ機能や役割を理解し、地域活動を基盤とした援助方法を学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	家族とは			
2	家族の生活と保健的機能			
3	家族を理解するための諸理論			
4	家族セルフケア機能の向上			
5	家族援助過程			
6	〃			
7	家族援助の実際			
8	家族アセスメント			
9	家族のストレス・マネジメント(1)			
10	家族のストレス・マネジメント(2)			
11	家族援助技法(1)			
12	家族援助技法(2)			
13	実習(1)			
14	実習(2)			
15	実習(3)			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 家族看護学 理論と実践 (日本看護協会出版会)				
評価の方法 筆記試験、出席状況 ※8～15は足利学				

授業科目	在宅看護論 I		学期	前期	必修
時間数 (単位数)	30 時間 (1 単位)	担当教員	太田 小百合		
授業目的 わが国では、高齢者の増加と共に医療費の増加が続いている。この医療費を抑えることと住み慣れた自宅でQOLを高めながら療養することが切望されている。同時に女性の社会進出、核家族化などによって家族の介護機能にも変化が訪れている。対応として正しい知識の普及、家族の再構築、社会資源の活用が望まれる。この様な背景の中で具体的な保健師の役割を考える。					
講義回数	主な授業内容				
1	在宅ケア・在宅看護の理念と目的				
2	〃				
3	在宅ケア・在宅看護の変遷				
4	〃				
5	対象の理解 ー療養者を理解するー				
6	対象の理解 ー家族を理解するー				
7	対象の理解 ー地域社会を理解するー				
8	在宅ケア・在宅看護の制度				
9	〃				
10	諸外国の在宅ケア				
11	〃				
12	トランスファー・スキル				
13	福祉用具について				
14	入浴介助				
15	清潔の工夫、実習				
必須文献, 参考文献等 [教科書] 在宅看護論 (ヌーヴェルヒロカワ)					
評価の方法 筆記試験、レポート、出席状況					

授業科目	在宅看護論Ⅱ	学期	後期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	太田 小百合	
授業目的 在宅医療、在宅看護を利用して地域で生活している療養者・家族への支援方法を学び、地域看護の役割を理解する。また療養者・家族の不安を受け止め、「生きる」を考える。				
講義回数	主な授業内容			
1	} 在宅ケア支援の実際			
2	①寝たきり高齢者の生活への援助			
3	②認知症高齢者の生活への援助			
4	} ③難病・慢性疾患患者の生活への支援			
5	} 在宅医療技術と看護			
6	①CAPD ③HPN			
7	} ②在宅酸素療法 ④ストーマなど			
8	訪問看護とは(概要)			
9	注入食ケア、ターミナルケア、認知症ケア等			
10	訪問看護ステーション活動の実際			
11	”			
12	在宅医療の実際			
13	”			
14	在宅看護の評価・課題と展望			
15	”			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 在宅看護論(ヌーヴェルヒロカワ)				
評価の方法 筆記試験とレポート、出席状況 ※ 8・9 林美穂 10・11 脇阪靖美 12・13 古河聡				

授業科目	健康教育論	学期	通年	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	太田 小百合	
授業目的 <p>地域看護における健康づくりは活動の柱となるものである。健康教育は単に知識や技術を伝えることが目的ではなく、対象者が自らの積極的な健康づくりのために、態度や行動変容につながるということが重要である。</p> <p>そこで健康教育の基本について学び、地域看護実習における健康教育を展開し、実地の学びを深めることで知識と技術、応用力、創造性を育むことを目指す。</p>				
講義回数	主な授業内容			
1	健康とは			
2	健康教育の理念			
3	健康教育の歴史的考察			
4	健康教育の企画・媒体・実施(1)			
5	健康教育の企画・媒体・実施(2)			
6	健康教育の評価			
7	学内演習			
8	〃			
9	中途視覚障がいをもつ講師からの学び			
10	〃			
11	地域看護実習における健康教育の企画・準備			
12	〃			
13	〃			
14	地域看護実習における評価			
15	〃			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 3 地域看護活動論① (メヂカルフレンド社) 最新保健学講座 別巻1 健康教育論 (メヂカルフレンド社)				
評価の方法 筆記試験、レポート、実習、出席状況で総合評価 ※ 1~6は大巻悦子 9・10は森田茂樹				

授業科目	母子保健指導	学期	前期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	太田 小百合	
授業目的 <p>以前の乳幼児健診では「障害者の早期発見、早期療育」を目標に問診、指導が行われてきた。現在の重要な課題として、発達障害、虐待の早期発見が挙げられる。いずれも正常発達を理解し、健診、訪問にて早期発見が出来る視点を持たねばならない。また、母親の不安を受け止めて母とともに子どもの発達、成長を促していく姿勢が必要になってくる。そんな行政保健師としての役割を考える。</p>				
講義回数	主な授業内容			
1	地域母子保健活動の歴史			
2	統計からみた母子保健			
3	母子保健の目指すもの			
4	乳幼児の発達			
5	乳幼児健診の意義			
6	〃			
7	家族計画			
8	思春期への援助			
9	勤労女性の保健			
10	地域の母子保健、福祉サービス			
11	育児不安に対する援助			
12	心身障害児・長期療養児への援助			
13	発達障害とは			
14	発達障害の早期発見			
15	母親教室の実践			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 3 地域看護活動論① (メヂカルフレンド社)				
評価の方法 筆記試験、出席状況 ※7・8 小椋芳子 13・14 若宮英司				

授業科目	成人保健指導	学期	前期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	朝山 友介	
授業目的 成人期の特徴と役割、生活と健康障害との関連を学び、健康増進と生活習慣病対策を中心に地域における保健活動について理解を深める。 また、保健師に必要な感染症、特にエイズ症候群、インフルエンザ、B・C型肝炎、結核について最近の動向と対策を学ぶ。そして、主な感染症対策(結核対策など)については地域での取り組みを中心に学習する。 地域で生活する難病療養者の生活を理解し難病対策と地域保健活動について学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	健康の概念とヘルスプロモーション			
2	成人各期の特徴・課題			
3	成人保健の目的・動向			
4	感染症の最近の動向と健康障害			
5	〃			
6	感染症と地域看護活動			
7	結核の管理体系と地域看護活動			
8	〃			
9	難病療養者の地域看護活動			
10	〃			
11	健康増進対策の沿革			
12	生活習慣病対策について			
13	} 生活習慣病対策と健康づくりのための援助			
14				
15				
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 4 地域看護活動論② (メヂカルフレンド社) 最新保健学講座 5 地域看護管理論 (メヂカルフレンド社) 沖田くんのタイムスリップ (財団法人結核予防会) 国民衛生の動向 2010年 /2011年 (厚生統計協会)				
評価の方法 筆記試験とレポート、出席状況 ※ 4・5は中野博重				

授業科目	高齢者保健指導	学期	前期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	柴田 真理子	
授業目的 高齢者が生きがいを持って社会参加ができ、自立した生活を送るために、高齢者に関わる環境と健康の課題を考え、高齢者のケアシステムについて多面的・総合的に学ぶ。 また高齢者の健康維持・増進および疾病予防・介護予防に対する支援と保健活動について学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	高齢者保健の動向と目標			
2	〃			
3	高齢者保健の制度と状況			
4	〃			
5	〃			
6	高齢者の地域ケアと保健師活動			
7	〃			
8	高齢者の権利擁護			
9	〃			
10	高齢期の健康維持と高齢者保健活動			
11	〃			
12	認知症の診断と治療			
13	〃			
14	地域リハビリテーション			
15	〃			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 最新保健学講座 4 地域看護活動論② (メヂカルフレンド社) [参考書] 完全図解 新しい看護 (講談社) 「痴呆の介護に困ったら」 (ワールドプランニング社) 平成23年版高齢社会白書 (株式会社ぎょうせい)				
評価の方法 筆記試験、レポート、出席状況 ※ 12～15は瀬尾崇				

授業科目	地域精神保健	学期	前期	必修
時間数(単位数)	30 時間 (1 単位)	担当教員	朝山 友介	
授業目的 地域精神保健活動の展開のために、社会資源や生活支援について知り、地域で生活する精神障がい者に対する理解と、相談活動など必要な援助活動について学ぶ。 精神障がい者を取りまく環境について知り、家族、地域への支援について学ぶ。 ライフサイクルにおける心理社会的な発達課題とその対応や支援について学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	精神保健対策の歩み			
2	精神保健医療に関する法制度			
3	自殺について			
4	睡眠について			
5	小児期の精神障害各論			
6	〃			
7	精神障害の分類と特徴			
8	〃			
9	精神障害者の生活実態と生活支援			
10	〃			
11	社会復帰支援について			
12	〃			
13	地域生活継続のための支援			
14	〃			
15	地域精神保健の課題と展望			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 ナーシング・グラフィカ 32 精神看護学 (メディカ出版) 最新保健学講座 4 (メディカルフレンド社) 国民衛生の動向 2010 年 /2011 年 (厚生統計協会) 国民福祉の動向 2010 年 /2011 年 (厚生統計協会) 地域保健ノート 2011 (大阪公衆衛生協会)				
評価の方法 筆記試験、レポート、出席状況 ※ 3・4 は飯田英晴 5・6 は橋本大彦				

授業科目	学校保健指導	学期	後期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	辻 立世	
授業目的 学校保健指導の目的は、養護の概念、養護教諭制度の変遷、教育者としての養護教諭の機能と役割、学校保健活動の概要を理解し、保健師が地域で養護教諭と連携し公衆衛生活動に役立てるものである。 養護教諭は保健室を拠点として児童生徒の保健管理・健康教育(保健指導)を通して教育活動に関わっている。近年の社会情勢は、いじめ、児童虐待、不登校、特別支援を必要とする子どもへの対応が必要とされている。養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした保健管理、健康相談、救急処置、医療的ケアの問題を学習する。				
講義回数	主な授業内容			
1	養護概説(養護の本質と概念、養護教諭養成制度の変遷、養護教諭の養成制度)			
2	〃(養護教諭の目的・機能・養護の対象)			
3	学校保健の構造、学校保健の担い手			
4	学校保健関連法規、特別支援教育と養護教諭			
5	学校保健活動と関連法規(学校教育法・学校保健安全法等)			
6	養護教諭と児童虐待			
7	健康診断と健康診断の事後処置、法的根拠			
8	健康管理における養護教諭の役割、健康教育			
9	養護教諭の専門性と保健室経営			
10	〃			
11	現代的健康課題への対応、学校精神保健			
12	〃			
13	学校精神保健(演習)			
14	〃			
15	学校環境衛生管理			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 最新保健学講座 4 地域看護活動論②(メヂカルフレンド社) 学校保健概論(光生館) 国民衛生の動向 2010年/2011年(厚生統計協会)				
評価の方法 出席状況(重視する) 授業中の態度、レポート、定期試験				

授業科目	産業保健指導	学期	後期	必修
時間数 (単位数)	30 時間 (1 単位)	担当教員	赤座 千世・吉井 珠代	
授業目的 <p>働く人たちの健康は経済・雇用等に大きく影響されます。こうした働く人たちの健康を維持・確保していくのが産業保健です。</p> <p>この講座では、演習を交えながら産業保健とは何かということを考えていきます。さらに、労働衛生の基本と産業看護職の役割も学んでいきます。</p>				
講義回数	主な授業内容			
1	産業保健の目的			
2	産業保健の歴史			
3	労働衛生の基礎知識			
4	職業性疾患とその予防			
5	労働衛生業務の概要			
6	産業看護の定義・産業の動向と健康問題			
7	産業保健活動の実際 ～健康診断と事後措置①～			
8	産業保健活動の実際 ～健康診断と事後措置②～			
9	産業保健活動の実際 ～特定健診・特定保健指導～			
10	産業保健活動の実際 ～THP、健康日本 21 と保健事業～			
11	産業保健活動の実際 ～メンタルヘルス対策～			
12	産業保健活動の実際 ～過重労働対策～			
13	産業保健活動の実際 ～快適職場づくり～			
14	産業保健活動の実際 ～職場における喫煙対策～			
15	まとめ			
必須文献, 参考文献等 <p>[教科書]</p> <p>最新保健学講座 4 地域看護活動論② (メヂカルフレンド社) 産業保健・産業看護論 (日本看護協会出版会)</p> <p>[参考書]</p> <p>厚生統計協会 国民衛生の動向</p>				
評価の方法 筆記試験とレポート、受講態度、出席状況 (総合評価)				
※1～5 は吉井珠代 6～15 は赤座千世				

授業科目	地域看護研究		学期	通年	必修
時間数(単位数)	60時間(2単位)	担当教員	柴田 真理子		
授業目的 地域看護活動における研究の基本を学ぶ。研究テーマの探究から始まり、研究発表会、論文作成の一連の過程を体験することで、将来の研究活動の基礎を理解する。 ※専攻科教員、菊川縫子、飯田英晴、足利学、増田徹が担当。					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	地域看護研究とは何か	16	}	演習 (情報の収集、結果の分析考察)	
2	研究のプロセス	17			
3	〃	18			
4	論文作成、研究発表の基本	19			
5	〃	20			
6	地域看護研究のテーマ選定	21		研究発表会準備	
7		22		〃	
8	}	23	}	地域看護研究発表会	
9		24			
10		25			
11		26			
12	}	27	}	論文の作成	
13		28			
14		29			
15		30			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 口演・示説要旨集 (日本公衆衛生学会近畿地方会) ナースのための質問紙調査とデータ分析 (医学書院) 最新保健学講座 3 地域看護活動論① (メヂカルフレンド社) 国民衛生の動向 2010年/2011年 (厚生統計協会) 国民衛生の動向 2011年/2012年(厚生統計協会) 最新保健学講座 1 地域看護学概論 (メヂカルフレンド社) [参考書] 草間 悟 勉強・研究・発表の技法 南江堂 中村 好一 保健活動のための調査・研究ガイド 医学書院					
評価の方法 地域看護研究の一連のプロセスにおける姿勢、意欲、チームワーク、出席状況をみると、研究論文、発表内容等を含め総合的に評価する。					

授業科目	環境保健論	学期	後期	必修
時間数(単位数)	15時間(1単位)	担当教員	菊川 縫子	
授業目的 社会経済発展による地球の温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨、森林の破壊など、地球規模で人間の破壊により、もたらされた健康や生態系への影響を学ぶ。また、身近な生活環境汚染による健康への影響。わが国の公害問題などから、さらに地球規模での環境問題は国際的な取り組みの必要性、これらの健康と環境のあり方について学ぶ。 また最も身近な環境である、住居環境について保健師活動との関係において学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	環境の評価			
2	大気と健康・土壌と健康			
3	水と健康			
4	温度・気圧と健康			
5	騒音・振動と健康			
6	放射線と健康			
7	家族と健康と生きがい その1			
8	〃			
9	家族と健康と生きがい その2			
10	〃			
11	福祉住環境整備の共通基本技術			
12	〃			
13	生活行為別 福祉住環境整備の手法			
14	〃			
15	生活行為別にみた 福祉用具の活用			
必須文献, 参考文献等 [教科書] 国民衛生の動向 2011年 /2012年(厚生統計協会)				
評価の方法 筆記試験及びレポート、出席状況 ※1～6は菊川縫子 7～10は荒木啓元 11～15は植田昌治・青山宏樹				

授業科目	疫学	学期	通年	必修
時間数 (単位数)	45 時間 (2 単位)	担当教員	中田 裕二・足利 学	
授業目的 集団の健康事象の規則性から、その成因を明らかにする疫学についての基礎とその応用について学習する。また、現場での調査例を参考にしながら、フィールド調査の技法について理解を深める。 また、パソコンを活用して実践的な分析も体験する。 近年の高度情報化社会の中で、医療・福祉領域においてもコンピューターを用いたデータの入力や分析、プレゼンテーション能力の向上が望まれる。そこで、本講義では、研究をより効率的に進めるために、パソコンを活用した情報管理の実際について詳述する。				
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容	
1	疫学概論	16	パソコンによる情報管理	
2	疫学で用いられる指標	17	調査の実施 (1)	
3	母集団と標本	18	調査の実施 (2)	
4	スクリーニング	19	データの集計と分析 (1)	
5	横断研究	20	" (2)	
6	症例対照研究 (後向き研究)	21	" (3)	
7	コホート研究	22	" (4)	
8	因果関係	23	まとめ	
9	感染症の疫学 I			
10	感染症の疫学 II			
11	疫学研究と倫理			
12	疫学で用いられる統計学的方法 I			
13	" II			
14	" III			
15	" IV			
必須文献, 参考文献等 [教科書] はじめて学ぶやさしい疫学 (南江堂) [参考書] 丸井英二編 最新保健学講座 7 メヂカルフレンド社				
評価の方法 中田…筆記試験、出席状況 足利…出席状況とレポートの提出状況から総合的に判断する ※1～15 は中田裕二 16～23 は足利学				

授業科目	保健統計学		学期	通年	必修
時間数 (単位数)	45 時間 (2 単位)	担当教員	緒方 昭		
授業目的 保健統計学は、人間集団の生命にかかわるあらゆる事象に関して統計的に考究する学問である。 即ち、人間集団を構成する各個体の違い（個体差）に注目して分類法を工夫し、区分して数えた数字を用いて集団の状況を記述描写する（記述統計）事によって集団を把握理解する。 さらに進んで、個体観察のみでは得られない自然界の法則性（統計的法則性）を明らかにすることを目的とする学問である。					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	保健統計学の定義、例による解説	16	標本代表値の標本誤差		
2	統計的研究の進め方	17	推定理論と方法。演習		
3	統計資料論 母集団と標本集団 其の他	18	検定理論と方法。演習		
4	資料整理・解析法 I.単純集計	19	衛生統計学。定義。衛生統計指標		
5	” 演習	20	人口静態統計。人口の推移・構造		
6	度数分布図。演習 1	21	人口動態統計。出生・死亡・死産統計		
7	” 演習 2	22	生命表理論		
8	度数分布図を利用した統計的考え方	23	医療統計。病院統計		
9	度数分布の状況を示す代表値	24			
10	代表値の性質・利用法	25			
11	II.クロス集計の目的と方法 演習 1	26			
12	演習 2 1) 相関図 2) 相関係数	27			
13	相関有りの場合の解釈法	28			
14	時間推移の観察法。出生 cohort 観察法	29			
15	標本誤差理論。母集団と標本集団	30			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 「看護研究への招待」 (金芳堂) 「看護統計学への招待」 (金芳堂)					
評価の方法 定期試験					

授業科目	保健福祉行政論 I		学期	通年	必修
時間数 (単位数)	45 時間 (2 単位)	担当教員	小田 泰宏		
授業目的 保健師は、対象者への直接的な働きかけはもちろん家族や関係機関との連携・調整も行う。これを有効に行うためには保健・医療・福祉に関する制度やその運用実態を熟知しなければならない。 この講義では、①保健福祉行政の位置づけを確認したのち、②病気になるための予防と健康づくりの取組み (保健)、③病気になってしまった場合に頼るべき医療制度と医療保険の仕組み (医療)、④病後の暮らしを支え、貧困の予防と救済を目的とする社会保障や社会福祉の状況 (福祉) について解説する。					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	講義の対象と方法	16	介護保険の仕組み		
2	統計でみる日本人の健康	17	医療対策		
3	国と地方の行政・財政	18	生活と福祉		
4	健康増進対策	19	生活保護と年金制度		
5	生活習慣病対策	20	児童家庭福祉サービス		
6	母子保健・学校保健	21	障害者福祉サービス		
7	職域保健・老人保健	22	福祉行政の基盤		
8	精神保健・歯科保健	23	国家試験対策		
9	感染症対策				
10	難病対策				
11	医療施設の開設・管理・設営				
12	医療人材の業務と養成				
13	医療保険の仕組み				
14	医療費の現状と問題				
15	高齢者医療制度				
必須文献, 参考文献等 [教科書] なし					
評価の方法 定期試験					

授業科目	保健福祉行政論Ⅱ		学期	前期	必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	荒木 啓元		
授業目的 1.我が国の社会保障(社会保険及び社会福祉)について、[①制度の体系 ②各種社会保険の仕組みと給付 ③社会福祉(低所得者、児童、高齢者、障害者等)]現状と課題について学習する。 また社会保障給付費、国家財政に占める社会保障関連予算について学習する。 2.ソーシャルワークスキル「ケアマネジメント」について学習する。					
講義回数	主な授業内容				
1	社会保障・社会福祉とは何か(定義、範囲、目的、根拠、機能)				
2	〃				
3	社会保障の給付と財源、国民負担				
4	}	社会保険の仕組みと給付・現状の課題(年金・医療・介護・労災)			
5					
6					
7					
8					
9					
10	}	社会福祉制度、現状の課題(低所得者・障害者・児童)			
11					
12					
13	}	ケアマネジメント			
14					
15					
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 社会福祉小六法 平成22年版(ミネルヴァ書房) 国民福祉の動向 2011年/2012年(厚生統計協会) 〔参考書〕 白澤政和著 ケースマネジメントの理論と実際 中央法規 白澤政和著 在宅介護支援センターに学ぶ ケースマネジメント事例集 中央法規 デビット・P・マクスリー著 ケースマネジメント入門 中央法規					
評価の方法 筆記試験またはレポート、出席状況					

授業科目	歯科保健論	学期	後期	選択
時間数(単位数)	15時間(1単位)	担当教員	玉川 裕夫	
授業目的 8020 運動達成に向けて、発達段階に応じた予防の基本と保健指導の実際を学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	口腔および歯の知識			
2	〃			
3	母子保健指導(う蝕とその予防)			
4	〃			
5	成人歯科保健(歯周病とその予防)・老人歯科保健(在宅歯科診療)			
6	〃			
7	相互実習			
8	〃			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 なし 〔参考書〕 榊原悠紀田郎他 看護学生のための歯科学 医歯薬出版 可児瑞夫・岩本義史 口腔衛生 医歯薬出版				
評価の方法 筆記試験、出席状況				

授業科目	保健栄養論	学期	後期	選択
時間数(単位数)	15時間(1単位)	担当教員	国里 益子	
授業目的 健康を維持管理する保健師業務の中で、食生活との密接な関連を認識し、保健指導に役立てられる乳幼児の成長に係る保護者実態や生活習慣病予防のための日常の食生活等の指導実態等現場のエピソードを含めて伝える。 また、日本国民の健康と食生活の現状について学習し、健康的な食生活のあり方、食行動の行動変容、食環境づくりなど指導の実際について学ぶ。				
講義回数	主な授業内容			
1	乳幼児の成長と食生活の実際			
2	中高年の生活習慣病予防と食生活			
3	国・府の食生活指針とその展開			
4	国民栄養の系年的変化と現状			
5	日本人の食事摂取基準(2010年版)			
6	健康的な食生活の実践プラン			
7	食行動の行動変容と栄養指導の実際			
8	〃			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 生活習慣病のしおり(平成22年版) (社会保険出版社)				
評価の方法 筆記試験、出席状況 ※1、2は吉田益美 3～8は国里益子				

授業科目	運動指導論		学期	後期	選択 養護教諭免許取得は必修
時間数(単位数)	15時間(1単位)	担当教員	藤田 英和		
授業目的 健康づくりのための運動を行っていくには、個人にあった運動プログラムで無理なく続けていくことにあります。生涯スポーツとしての立場から、運動処方を作るための理論、運動を指導するための実際並びにこれからの指導者としての要因を学ぶ。また、地域でのコミュニケーション、健康づくり活動には欠かせないレクリエーションを実践する。					
講義回数	主な授業内容				
1	生涯スポーツ概念について 現在の生涯スポーツの現場 これからの生涯スポーツ				
2	健康づくり指導のための運動理論 運動処方について 運動の基礎的理論				
3	運動処方のプログラムについて 体力測定&形態測定(目的、項目&評価) 運動プログラムの作成&効果把握				
4	体力測定の実際と評価及び運動指導の実践 簡単なリハビリ運動の実際 楽しい運動処方(運動メニュー)				
5	健康づくりのための運動指導者について 運動指導者としての適正 これからのスポーツ指導者像				
6	運動指導の実際 運動プログラムの作成と実践				
7	レクリエーション・スポーツの実践 I				
8	レクリエーション・スポーツの実践 II				
必須文献, 参考文献等 [教科書] なし					
評価の方法 レポート、出席状況					

授業科目	文献講読	学期	前期	選択 養護教諭免許取得は必修
時間数(単位数)	30時間(1単位)	担当教員	松島 早加栄	
授業目的 時事的又は身近で現代的な健康問題から疾患に関するものまで、いろいろな英文を読み、英語の文献を読む力を養う。				
講義回数	主な授業内容			
1	Slowing Down in a Fast-food World			
2	Laugh Your Troubles Away			
3	Save Your Life and Others'			
4	Alcohol on the brain			
5	The Dangers of Cannabis			
6	Depression and Suicide			
7	Think Positive			
8	Relief from Pain			
9	Preventing Pandemics			
10	} 学会誌からの引用文献			
11				
12				
13				
14				
15	" 課題			
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 Quality of Life (南雲堂) プリント配布				
評価の方法 授業中の発表と課題提出、出席状況				

授業科目	日本国憲法	学期	通年	選択 養護教諭免許取得は必修
時間数(単位数)	30時間(2単位)	担当教員	吉田 卓司	
授業目的 受講者が、将来、看護師等として医療に従事することを考慮し、医療従事者として、患者の人権擁護にかかわる上で、不可欠となる我が国の憲法における人権思想の理念と法制を学ぶ。 本講義における憲法学習では、最近の具体的な事例をとりあげ、人権と憲法の視点から、「憲法を現在の医療・看護に生かすとはどういうことか」を考えていく。				
講義回数	主な授業内容			
1	講義のすすめかたと評価について			
2	憲法を支える基本理念			
3	人権思想と医療・福祉			
4	日本国憲法の基本的性格と成立過程			
5	法の下での平等(1)			
6	法の下での平等(2)			
7	自由権的基本権(1)			
8	自由権的基本権(2)			
9	社会権的基本権(1)			
10	社会権的基本権(2)			
11	参政権と国民主権の仕組み			
12	請求権			
13	新しい人権			
14	平和憲法と安全保障			
15	講義の総括			
必須文献, 参考文献等 [教科書] なし				
評価の方法 テスト(50%)、提出物(25%)、受講態度(25%)により、総合的に評価する。				

授業科目	運動学実習	学期	後期	選択 養護教諭免許取得は必修
時間数(単位数)	30時間(2単位)	担当教員	藤田 英和	
授業目的 『健康づくり活動は、誰でも気軽に参加でき、楽しくなければならない。』ということから、自らが一般の方々を指導していくものとして指導者資質を高めていかなければなりません。そのために身体運動(トレーニング&ストレッチング)、ニュースポーツなどの健康づくり運動並びにリハビリ運動、介護予防運動などを実践します。 また、健康づくりイベント(ウォーキング大会&ニュースポーツ大会など)へ参加し、一般市民との交流を図ります。				
講義回数	主な授業内容			
1	ストレッチ体操、健康体操など			
2	リハビリ運動及び介護予防運動			
3	〃			
4	徒手による抵抗運動及び簡単なトレーニング			
5	〃			
6	サーキット型トレーニング			
7	〃			
8	ウォーキング及び身近で行われている運動			
9	〃			
10	ニュースポーツ&レクスポーツ(コートスポーツ、ターゲットスポーツなど)			
11	〃			
12	} 大阪環状線一周ウォークへの参加(27km)			
13				
14				
15				
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 なし				
評価の方法 レポート				

授業科目	英語コミュニケーション	学期	通年	選択 養護教諭免許取得は必修
時間数(単位数)	15時間(1単位)	担当教員	松島 早加栄	
授業目的 近年、国際化が進み、医療の世界でも我々の身近な所においても英語を使う機会が増えてきています。この講義では、日常使える英会話を基本にして医療場面での英語表現も学ぶことを目的とします。				
講義回数	主な授業内容			
1	挨拶と紹介			
2	お礼とお詫び、依頼と誘い、気持ちを伝える			
3	あいづちと質問、詰まった時、許可を求める			
4	話題の転換、上手に断る、年・月・日の表現、医療場面における英会話と表現			
5	時間と曜日、四季、数・数量・程度の表現			
6	天候、家族、仕事、好みや趣味			
7	訪問			
8	病気、医療場面における英会話と表現			
必須文献, 参考文献等 [教科書] はじめての日常英会話 (西東社)				
評価の方法 授業中の発表と出席状況				

授業科目	地域看護実習 I		学期	通年	必修
時間数 (単位数)	90 時間 (2 単位)	担当教員	朝山 友介、専任教員		
授業目的 地域看護学とは、すべての人々が主体的に健康を守り、QOLの向上を目指せるよう支援することである。 地域で暮らす人々への継続的な家庭訪問を通して、個人・家族・地域の状況について学び、家庭訪問における保健師の役割を学ぶ。					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	オリエンテーション	42	} 報告会		
2	初回面接	}			
3	〃				
4	} 6月 第1回 家庭訪問 グループカンファレンス 7月 第2回 家庭訪問 グループカンファレンス 9月 第3回 家庭訪問 グループカンファレンス 10月 第4回 家庭訪問 グループカンファレンス 11月 第5回 家庭訪問 グループカンファレンス	45			
}					
			41		
必須文献, 参考文献等 〔教科書〕 なし					
評価の方法 目標到達度 、 カンファレンス参加状況 、 実習レポート					

授業科目	地域看護実習Ⅱ	学期	通年	必修
時間数(単位数)	135時間(3単位)	担当教員	柴田 真理子、専任教員	
授業目的 公衆衛生看護活動の拠点である、保健所や市町村の保健師活動を実地に学ぶ事を通して、地域住民の健康に責任を持ち、個人・家族・地域集団の健康に責任を持ち、個人・家族・地域集団の健康課題に働きかけ、住民や関係者の人々とともに組織的な活動を展開する保健師の専門性と役割を理解する。 また地域看護管理について考える能力を身につける。				
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容	
1) 20 21) 60	前期実習 オリエンテーション及び実習 地域の情報把握と地区診断 後期実習 実習計画を基に実習地域における保健師活動の実際を体験して学ぶ	61) 68	実習まとめと報告会 地区活動の学びの作成	
必須文献, 参考文献等 [教科書] なし				
評価の方法 実習準備、実習まとめの一連の課程における参加態度、実習記録、自己評価、指導者評価を含む総合評価				

授業科目	地域看護実習Ⅲ		学期	通年	必修
時間数(単位数)	90時間(2単位)	担当教員	太田 小百合、専任教員		
授業目的 保健師が活躍する他の分野で、実践しながらその役割を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「訪問看護」では、訪問看護ステーションにおける組織と体系を理解し、実践を通じて地域での役割と位置づけを学ぶ。 ・「産業保健」では、事業所において展開されている健康管理の方法を学ぶ。 ・「学校保健」では、学校における健康問題を理解し、養護教諭の職務の実際について学ぶ。 					
講義回数	主な授業内容	講義回数	主な授業内容		
1	事前学習	40	} まとめ		
2	〃	〃			
3	オリエンテーション		} 報告会		
4	〃	43			
5	} 各分野でグループに分かれ 実習する	44	}		
〃		45			
32	} 記録				
33		〃			
36	} カンファレンス				
37		〃			
39					
必須文献, 参考文献等 [教科書] なし					
評価の方法 記録、出席状況					